

✉ ~ 1 9 1 7 ~ ✉

1917 命をかけた伝令

1 9 1 7

映画で考える 「一人ひとりの命の重さ」

対象：中学生以上

名前

年 組

1 数字の向こうにいる「一人の人」

教科書には「戦死者〇万人」と数字が並びます。でも、その一人ひとりに**名前があり、家族がいて、帰りたい場所**がありました。

✉ 「1600人」は、1600の人生。

🔑 映画の設定

1917年、第一次世界大戦のフランス。2人の若い兵士が「攻撃は罠だ。中止せよ」という命令を届けるため、敵地を横切ります。間に合わなければ、約1600人の兵士の命が危ない——その中には、ブレイクの兄もいました。

※登場人物と物語は、史実をもとにした創作（フィクション）です。

2 一人の人として見る4つの視点

■ ① 数の中の一人

「1600人」の中に、兄や友だち、誰かの子どもがいる。

■ ② 敵も一人の人

相手の兵士も、同じように若く、怖がっている人間。

■ ③ 小さな優しさ

戦場の中でも、人は人を助けようとする。

■ ④ 命令と良心

命令に従う？ 命を守るために止める？ その重さを考える。

3 映画『1917 命をかけた伝令』とは

あらすじ

1917年4月、フランス。イギリス軍の若い兵士ブレイクとスコフィールドは、将軍から特別な任務を命じられます。電話線は切られていて、伝える方法は**自分の足で歩くこと**だけ。2人は、敵が去ったばかりの危険な土地を越えていきます。

「ずっと一緒に走る」カメラ

この映画は、最初から最後までひと続きのカメラで撮ったように見える作りです（実際は長回しの映像をつないでいます）。見ている私たちも、兵士と一緒に走っている感覚になります。アカデミー賞で撮影賞など3部門を受賞しました。

見るときの心がまえ

戦場の厳しい場面も出てきます。迫力を楽しむのではなく、**そこにいる一人ひとりが何を思っているか**を想像しながら見ましょう。

4 一人の人として見るワーク

 映画を観て（またはあらすじから）、考えて書こう

① いちばん心に残った場面と、その理由は？

② スコフィールドは、旅の前と後でどう変わった？

③ 「戦死者〇万人」という数字を見るとき、これから何を思い浮かべたい？

④ 100年以上前の戦争から、今の私たちが学べることは？

5 ふりかえり

戦争の数字の向こうには、_____がいたと分かりました。これから、ニュースや教科書で数字を見たときは、_____を想像したいです。

 「数字の向こうに、一人の人生がある。」

先生・保護者へ：『1917 命をかけた伝令』は日本で映倫Gですが、戦場の遺体や負傷の描写、緊張の強い場面があります。本資料は中学生以上を想定しています。上映する場合は事前に場面を確認し、第一次世界大戦の背景（塹壕戦・ヒンデンプルク線への退却）を補ってください。物語は史実をもとにした創作です。

© 2026 FilmEdu AI / この教材はAIを活用して作成しています。内容に誤りを含む場合があります。解説文はすべてオリジナルで、ポスター・場面写真は使用していません。作品の著作権は各権利者に帰属します。授業での上映には適切な権利処理が必要になる場合があります。